

■今月の特選句

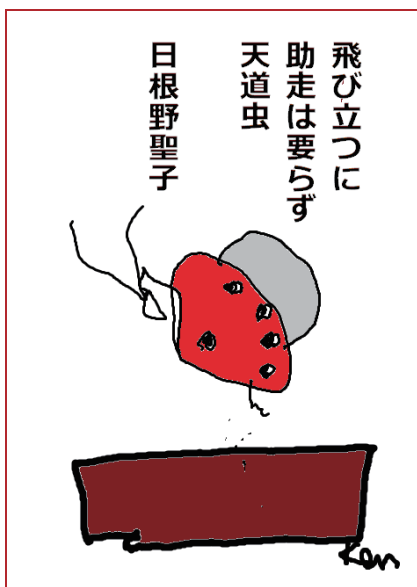
2025年8月



蜗牛小さは小さき荷を背負ひ

池田奈美子

蜗牛はそれぞれ体の大きさに応じた殻を背負っている。大きな蜗牛から見れば小さくとも、小さな蜗牛にとって「小さき荷」は重いのである。



飛び立つに助走は要らず天道虫

日根野聖子

羽を持つ鳥は飛び立つ際にいくらかの助走めいた動きをする。しかし、天道虫は羽を広げると同時に空中に飛ぶ。当たり前の中に見つけた発見。



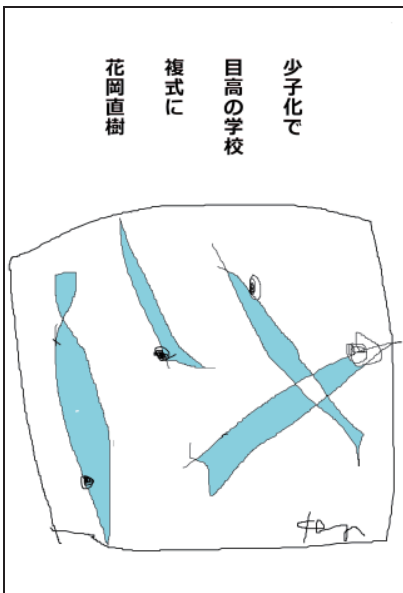
トランプさんジョーカーに見え暑気中り

佐野萬里子

トランプ氏は全世界を相手にやりたい放題。国によっては五十%の関税をちらつかせる。次はどんな手を使うのか。ジョーカーはゲームの鍵になる。

■今月の特選句

2025年8月



少子化で目高の学校複式に

花岡直樹

目高は、平成十一年に絶滅危惧種に分類されてしまった。川の中という教育環境の悪化が原因だが、生徒の減少には複式学級もやむをえまい。



蚊を打つに蚊が邪魔をする飛蚊症

加藤潤子

蚊を打とうとしたら、飛蚊症による目の中の蚊が邪魔をしてきた。部屋を飛ぶ蚊には殺虫剤をかけられるが、目の中を飛ぶ蚊には打つ手がない。



カップ麺夜食の国と飢餓の国

北熊紀生

カップ麺は、昭和四十六年のカップヌードルが最初で日本が発祥。即席で空腹を満たせると今や全世界で喜ばれているが、カップ麺さえ無い国も。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

制服のどつと乗り込む暑さかな

・・・若さの放つ熱量怖し

名本敦子

子目高の点点泳ぐガラス鉢

・・・目高の体はみな透き通り

井野ひろみ

棟梁も弟子に伝授や三尺寝

・・・師匠の振る舞ひ真似るも修行

高田敏男

プールの後は睡魔に文字の泳ぐなり

・・・ミミズが這うたやうな字となる

渡部美香

焼け石に打ち水すればやけつぱち

・・・やけつぱちには焼け石びつくり

山下正純

投扇の如く白鷺降り立ちぬ

・・・白鷺のごと投扇は舞ふ

西野周次

黒南風や心の中に不発弾

・・・信管抜いて安全処理を

敷島鐵嶺

民の声しかと聞けよと法師蟬

・・・鳴き声怒りとも嘆きとも

遠藤真太郎

手囲いのほうたる点滅してをりぬ

・・・指間に覗く蛍愛らし

井口夏子

注連張れば村の泉は霊水に

・・・蛇口に注連縄張つてみようか

伊藤浩睦

二重虹ひょいと跨ぐや越後佐渡

・・・なんと見事な美脚にあらむ

柳村光寛

選挙カー植田が目覚めてしまう

・・・減反すすめた候補が来たか

鈴木和枝

汗出せば軽くなる身やフィットネス

・・・水分出たけど脂肪は減らず

門屋 定

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

品格など問わない寝相熱帯夜	青木輝子
蟻と象いのちの重さ同じかな	青木輝子
時の日や時という金無駄遣い	青木輝子
五キロの米に殺気も並び暴れ梅雨	井口夏子
田を植えて整理整頓できあがる	井口夏子
朝顔や勤務するのは八時間	池嶋久春
台風が去るも休暇も過ぎ去りし	池嶋久春
蒸し出され日干しとなりし蚯蚓かな	池嶋久春
ダイアナのドレスの如き白紫陽花	池田奈美子
愛犬の好物なりし西瓜買ふ	池田奈美子
ばつ一の婚活連れ子が品定め	池田亮二
木蔭千金そよ風万両炎暑の道	池田亮二
売れないよ泉の横の自販機は	伊藤浩睦
田水湧く柄の長いのが肥柄杓	伊藤浩睦
梅雨明ける今朝の涙を風さらひ	稲葉純子
氷水解けてしまへばただの水	稲葉純子
夏てふ名の西瓜売り上げナンバーワン	稲葉純子
冷麦や料理する身になって欲し	井野ひろみ
製氷に休む間の無き冷蔵庫	井野ひろみ
キューカンバーのパキンポキンや風呂あがり	上山美穂
真夏日を弾む自転車日曜日	上山美穂
薄皮を剥がしきつたる梅雨の明け	上山美穂
先生の熱弁水母の皮膚呼吸	卯之町空
さっちゃんの家はもうすぐ百日紅	卯之町空
織姫の織りなす風よ今宵晴れ	卯之町空
夏の夜の赤三日月や山の上	梅野光子
帰り道夕焼に足を止められる	梅野光子
七夕やひと目逢ひたき逝きし夫	梅野光子

いちどきの爆音花火の終宴に
ついさつき別れし彼や星月夜
前うしろ区別のつかぬ日焼かな
筆耕も絶滅の危機硯洗う
飛んでゆけ講和の密使に秋螢
だぶだぶの紙に包まれ袋掛
汗は疲れず昼夜動き続けても
たいやうに焦がれあぢさみ焦げにけり
若竹やあと十センチ背たけ欲し
千円でいちご農園食べ放題
熱帯夜涼を求めて夜の街
外人は短パンが好き古都の朝
米蔵が金蔵になり夏は来ぬ
青葉木兎鳴き始めれば風変わる
ソフトクリムの決壊口で防がねば
この土地もこの万緑も相続す
梅雨晴間ただ会うだけのお茶の会
ムシムシの梅雨が明ければ誕生日
原爆忌鉄腕アトムは科学の子
生ビール重い重いともう一杯
六月の白い洋服雨がイヤ
若冲の鯨と象や青紅葉
もちずり(振花)の草書ねちれて右はらひ
白映ゆる鱧の湯引きにチューブの梅干
早桃食ふ喉を潤すすつきり感
行水や広島美しきと思ひつつ
蛇を発見にわとりは木の上へ
淡きかな紙魚は頁の影となる
一匹の蠅スマートフォンに付き纏ひ
コンビニはセーブ地点よ炎天下

柄川武子
柄川武子
柄川武子
遠藤真太郎
遠藤真太郎
大林和代
大林和代
大林和代
沖枇杷夫
沖枇杷夫
沖枇杷夫
朧 潤
朧 潤
朧 潤
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
木村 浩
木村 浩
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子

てふてふの井戸端会議か家庭菜園
老鶯や語尾を端折りて谷渡り
おやつばめ迷ふことなく子の口へ
袋掛せし梨の実を鳥食ひ
去年まで墓参りせし夫今遺影
ルンペンの髪洗ひをるボランティア
クーラーを消して裸族となりにけり
喜寿傘寿老々介護や菖蒲の湯
放出米胡麻塩ぎゅっと握り飯
梅雨あけて洗濯物が揺れ燥ぐ
葛藤(つづらふじ)鈍行列車の窓を打つ
柩に白ゆり高三男子泣く
傷痕軍人の歌う軍歌や夏祭り
思い出を伐り払はれる夏の夢
黴臭き古代遺跡の展示室
練り歩く実盛送り虎が雨
鎌を研ぐ雨ふり仕事にとっておく
長引く戦ひまわりの種握ったまま
万緑や鈴虫の赤ちゃん湧いてゐる
青大将我が物顔に寝そべりて
紫陽花の色雨粒を持て余す
早乙女は今年八十口八丁
トタン屋根雨音消えて梅雨上がり
炎帝に起こさるる朝まだ八時
炎帝の金剛力に蒸す厠
買取りの不可なる本よしづの女忌
行者なり蝮局(とぐろ)巻きたる蛇に座し
正座のしびれ大蛇に巻かれしごと
片頭痛大蛇に何度も咬まれしごと

桜井美千
桜井美千
桜井美千
佐野萬里子
佐野萬里子
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次
上甲 彰
上甲 彰
上甲 彰
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴木和枝
鈴木和枝
高須賀溪山
高須賀溪山
高須賀溪山
高田敏男
高田敏男
田代輔八
田代輔八
田代輔八
田中 勇
田中 勇
田中 勇

鬢付けの匂ふ巨漢の浴衣かな
怪しげな素振りを見せて扇風機
手土産はあなたの好きな西瓜です
甘酒や二日酔いの救世主
転勤の副産物は地ビールか
極暑なりスニーカーまで怖気づく
釣堀の魚はグルメ釣餌は食はず
うやむやのままに起こされ熱帯夜
電動団扇快速電車無言
消えた米値段の行方五月闇
公園の東海林太郎の杜若
冷風扇話しかけても返事せず
ばたばたと六十五歳蚤取粉
アロハ着て認知症なる森の中
ざりがにの鉄だらりと死んでゐる
山羊の背に顔置く山羊や実梅落つ
薫風を太極拳の鼻に吸ふ
梅雨晴の古古古米のオムライス
麦飯や土俵に鬼の居た時代
紙魚走る「赤頭巾ちゃん気をつけて」
夏の庭大きく育ち紋白蝶
順番を待ち行水の雀たち
子育て楽し子育て嬉しと燕飛ぶ
外すまで美男であったサングラス
流れ星つい声に出すプロポーズ
お面して不倫のばれぬ夜店かな
壁紙のしみの歳月冷奴
荒梅雨やつけっぱなしの昼灯
目差せるは万里の長城蟻の列
指先も足も饒舌阿波踊り

田中やすあき
田中やすあき
谷本 宴
谷本 宴
谷本 宴
月城花風
月城花風
月城花風
土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山
百目鬼強
百目鬼強
百目鬼強
尚山和桜
尚山和桜
尚山和桜
長井多可志
長井多可志
長井多可志
長井知則
長井知則
長井知則
永井流運
永井流運
永井流運
名本敦子
名本敦子
西野周次
西野周次

百歳の昭和が叫ぶ終戦日
尿酸値今日は封印ピア旨し
ガキ大将青大将を首に巻き
家建てる音とんてんかん梅雨明くる
鰻弁も自動販売の世なりき
海開き水着のカラフル散りばめて
夏の朝白い扉を開けてくる
日傘が闊歩美男美女は気のせい
女郎蜘蛛おいでおいでと歌舞伎町
蝉時雨太陽さへも押し黙る
まひまひやきつと四角は嫌なんだ
猫逝きて私ひとりに簾寝椅子
地に伏せる猫の殺気やばった跳ぶ
鳴き馴れて老鷹山を我が物に
山梔子の持て余すほど香を放ち
夜半の夏混沌の世も眠らずに
初夏の風のふんわりいわさきちひろ展
先客は蟪蛄の子よ植物園
耳に残るさつきの話なめくぢり
雷に話の腰を折られけり
落ちたねと目顔を交わすはたた神
チラ見せの山の稜線夜の雷
鶏小屋の裸のキング羽拔鶏
日雷猫の眉毛は五六本
妣のあの小言聞こゆる盆三日
坊主刈りグローブバット梅雨の明け
朝なさな蠅虎蜘蛛の目に好意
せせらぎを上れど上れどあめんぼう
おつとと皿のゼリーが滑り込む
二階から目薬のごと辣蕒の屁
虹濃くて別るるきつかけ掴めない

花岡直樹
花岡直樹
久松久子
久松久子
久松久子
日根野聖子
日根野聖子
細川岩男
細川岩男
細川岩男
ほりもとちか
ほりもとちか
ほりもとちか
松浦百重
松浦百重
松浦百重
三木雅子
三木雅子
三木雅子
南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ
峰崎成規
峰崎成規
峰崎成規
明神正道
明神正道
明神正道
棕本望生
棕本望生
棕本望生

水替えてと上目遣いの目高かな
振花の非常階段極楽へ
ずぶ濡れの考える人梅雨深む
夕立のやむ気配なしペダルこぐ
夏の階段のぼりつめれば雲の中
冷やし瓜くるりくると気をもます
もちもちと買ふのが水虫の薬
梅酒に氷砂糖を気前よく
夜更かしの帰省子朝寝許されて
安酒も輝いている切子かな
蒲の穂を連続爆破させてゆく
出るとすぐ無理と叫んだ炎天下
風を聴き風を操る手練かな
殺気立つものの一つや油虫
餌を乞い懸命に生き燕の子
太陽の光がおやつトマトかな
梅雨晴にキッチンカーとソーダ水
日焼けしてまた日焼けして日焼けして
省エネの宣伝塔や団扇振る
豆腐屋の笛に今夜は冷奴
よたへろに冷氣ほしくてショッピング
猛暑なる終日自由楽しんで
梅漬けるばばの小言を思ひ出す
現代の落穂拾ひや米不足
やぶ蚊たち血液型に無関心
甘酒やベッドの母と懐かしむ
母の手の浮腫みのとれてゆすらうめ
誰が為に新茶のしまひのひと零く
風の息吹き掛けられし大青田
米関税米は備蓄と荒れる夏

村越 縁
村越 縁
村越 縁
森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子
八木 健
八木 健
八木 健
八塚一青
八塚一青
八塚一青
柳村光寛
柳村光寛
山岡純子
山岡純子
山岡純子
山下正純
山下正純
横山洋子
横山洋子
横山洋子
吉川正紀子
吉川正紀子
吉川正紀子
渡部美香
渡部美香
和田のり子
和田のり子
和田のり子